



ひらかたパークの 安全管理の取り組みについて

2011年2月23日

株式会社京阪レジャーサービス

金澤一徳

施設概要



コンセプト
概要

「花と緑と水、そして光」
アトラクションをはじめ、イベント(ホール・ステージ)、ローズ
ガーデン、プール、スケートと四季を通じて楽しめる遊園地

総面積
施設数

159,193m² (甲子園球場グラウンド 約12個分)

アトラクション 43機種
(直営28機種、委託(3社)15機種)

物販 9店

飲食 3店

年間入園者数

約100万人

経営
運営

京阪電気鉄道株式会社

株式会社京阪レジャーサービス

(京阪電鉄100%子会社)



ひらかたパークの歴史



1910(明治43)年春

香里遊園地にて第1回菊人形を開催
(ひらかたパークの前身)

1912(大正元)年10月6日

開園

1955(昭和30)年4月1日

バラ園完成(当時東洋一のバラ園)

1965(昭和40)年6月20日

「ファミリープール」営業開始

1972(昭和47)年12月1日

「アイス・スケートリンク」開業

1996(平成8)年7月20日

総工費80億円をかけて大規模リニューアル

…そして2012(平成24)年には、**開園100周年**



- ① 少子高齢化
- ② レジャーの多様化
- ③ 安全、安心な施設づくり
- ④ 相次ぐ遊園地・テーマパークの閉園

⇒ 地域密着型で沿線住民の思い出の地となり、
京阪沿線の価値向上に寄与できる施設を目指す

私たちは、
自由な発想と尽きぬ情熱を原動力に、
お客さまが笑顔になる感動を提供し、
世代を超えて愛される遊空間を創造し続けます。

お客さまの笑顔のために、私たちは5つの空間を創造します。

安 心・・・安全という優しさを感じる空間

平 等・・・誰もが心地よく過ごせる空間

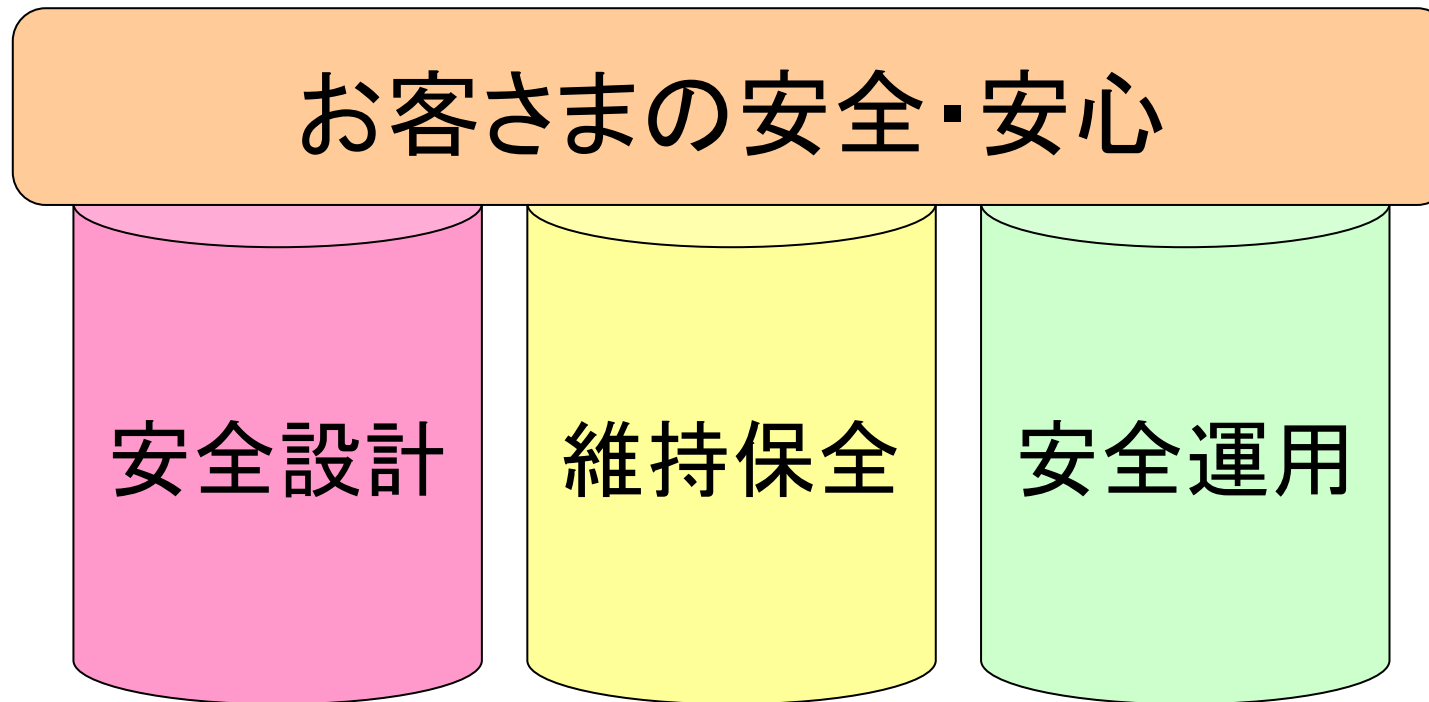
発 見・・・新しい驚きに出会える空間

夢 中・・・楽しさに心ときめく空間

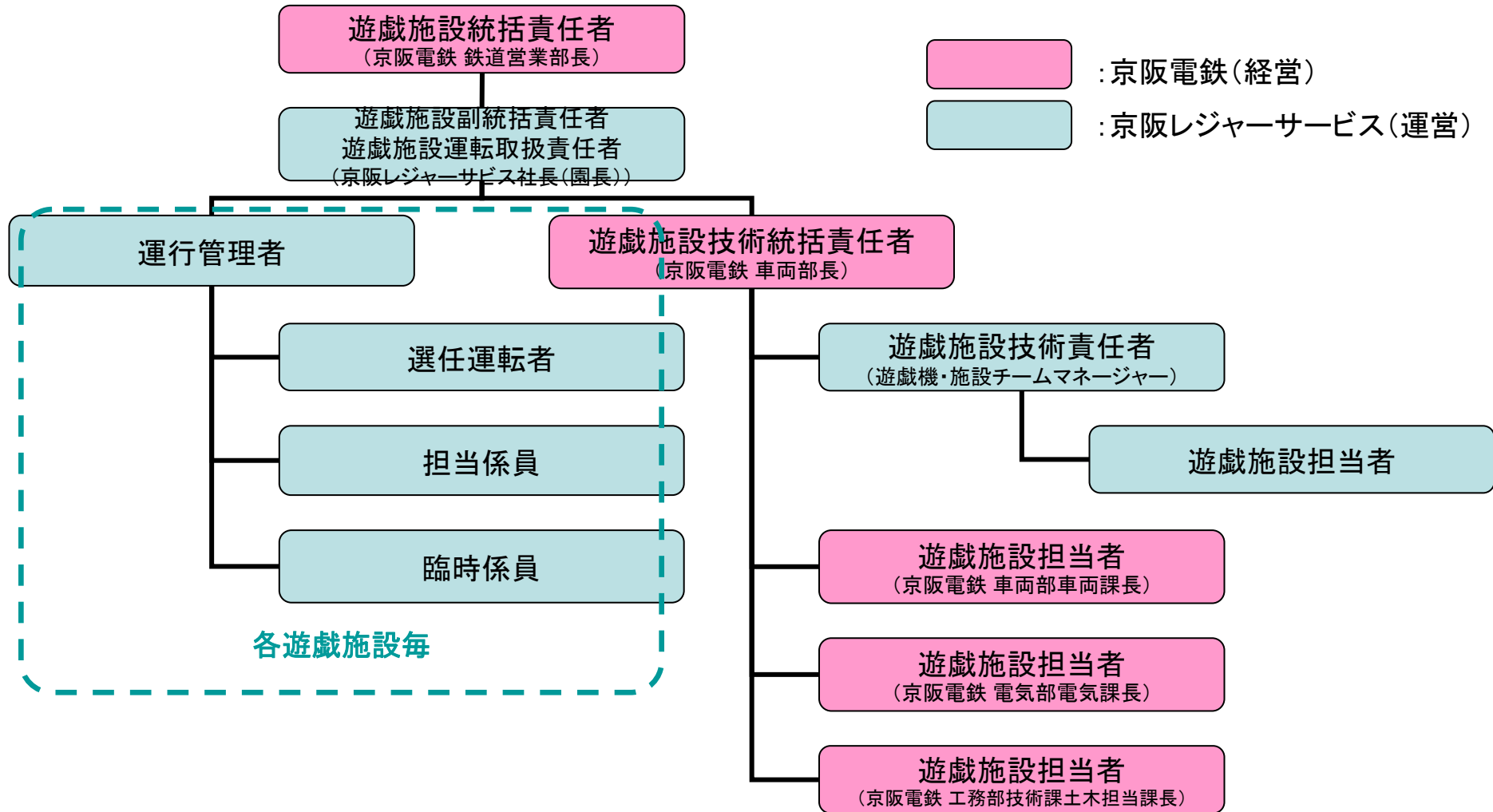
思い出・・・心に残る時間を共有できる空間

＜鉄道事業を基幹とする京阪グループとして**安全・安心を第一**に＞

3本の柱



遊戯施設運行管理体制



検査体制①



1. 毎日検査 / 毎日

①始業点検

座席・扉・身体保持装置、安全柵、ブレーキ・安全装置・非常用装置、走路・機械各部、回転・昇降の可動部分、電圧値・電流値、油・空気の漏れ・圧力・温度等

②終業点検

利用者の降車、ブレーキ・モーター等の異常の有無、機械装置・電気装置各部の異常の有無、回転・昇降可動部分の異常の有無、火気の後始末

2. 細密検査 / 3ヵ月以内、年6回以上

枠組、駆動装置、主動電機、制御装置、制動装置、車輪、車軸、安全装置、車体、ワイヤーロープ、軌道、走行路、乗降場、柵等の要部の状態

3. 定期検査 / 年1回

枠組、駆動装置、主動電機、制御装置、制動装置、車輪、車軸、安全装置、車体、ワイヤーロープ、軌道、走行路、橋梁、乗降場、柵・配線等の状態および機能について全般

4. 特別検査 / 毎日検査、細密検査、定期検査以外に指定された項目

5. 臨時検査 / 新設、30日以上休止、台風・地震等の天災地変、大改造・修理

6. 初期検査 / 新設(移設、改造を含む)してから1ヵ月以内

検査体制②



＜グループのネットワークを活用＞

- 鉄道技術部門(車両、電気)の業務経験者を出向として受け入れ、技術を伝承
- 大型コースターの車両分解検査は鉄道の車両工場に持ち込み、鉄道技術部門のサポートを得ながら実施



- 遊戯機の運営と点検・整備は
同じ部署(遊戯機・施設チーム)で
⇒「危険の目」を運営する立場でもチェック



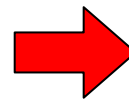
安全管理の取り組み②-1／安全衛生委員会



- 3カ月に一度のペースで「安全巡視」を実施
- 従業員の安全を確保する観点に加え、お客さまの安全を確保する観点でもチェック



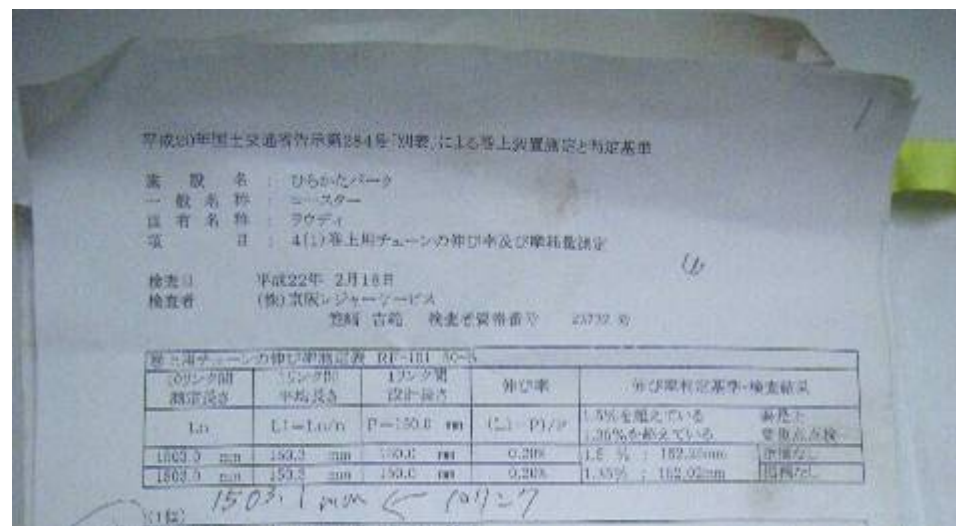
- 「安全巡視」には、遊戯機・施設チームだけでなく、営業チーム、総務部のメンバーも入り、違った視点で確認
また、社長(園長)、取締役(副園長)も参加
- 営業時間中に実施し、運営上の危険の目も摘み取る



安全管理の取り組み③／油まみれのチェック表



- 点検チェック表は点検「現場」でチェック
 ⇒ 点検チェック表を「書類」作成しない。
 現場で見て、触って、確認しながら手書きで記入する。



安全管理の取り組み④／他施設事故・トラブル報告書

- 同業他施設をはじめ、関連施設の事故情報を委託業者を含めたパーク全体で共有
⇒1つの事故・トラブルがパーク全体へ影響を及ぼす

平成 年 月 日	
他施設における事故、トラブル情報および当園の対応報告書	
報告者： _____ 印	
報告種類	速報・詳報・対応完了報告・その他 ()
情報源	TV、新聞、WEB、メーカー、その他 () 入手者：
発生日時	平成 年 月 日 () 時 分頃
施設名	
機種、施設	
事故内容 (被害状況含む)	<small>※記載内容が詳細になる場合は別途、別紙(ニュース記事、写真等)を添付のこと。</small>
事故原因 (推定含む)	
当園における 類似機種、施設	
当園の対応	1. 当園類似施設の対応：①営業継続の可否(可・否) ②点検の要否(要・否) 2. 検討事項の有無：①ハード面(要・否) ②ソフト面(要・否) 3. 対応：①主管部署(総・営・遊) ②会議体(SM、情報、営L、遊C、定例) 4. 対処期限(目処)： 年 月 日 まで 5. その他具体的対応内容、結果等

遊戯施設の安全管理における課題



- ① 老朽化した施設の維持管理コストの増大
⇒優先順位をつけて計画を立て、先手を打って定期的に修繕
- ② 維持保全計画策定における難しさ
⇒どのタイミングで部品を換える？状況を常に把握して
- ③ 利用制限の設定と運営上の課題（「乗りたい」お客さま）
⇒身長1センチ差の安全性をご理解いただく
- ④ 遊戯施設の安全対策等の情報共有
⇒パーク内、同業他施設だけでなく、事故情報・対策も共有
- ⑤ メーカー、園内パートナー会社との連携
⇒ひらかたパークの規程に基づく管理・運営

お客様の安全・安心

安全設計

維持保全

安全運用

3つの「柱」の仕組み(ルールや手順)を作ることは比較的簡単
重要なのは、

- ①守られるルールや手順を策定すること
- ②ルールや手順をPDCAサイクルに乗せて常に進化させること
- ③実行できる人材を育てること

ご清聴ありがとうございました。



ポピー・ハーケン ピピン・ハーキン